

I 基礎編

4 啓発を推進するうえでの視点

(1) よこはま防災e-パークを活用した啓発

いつでも、どこでも、オンラインで身近に防災を学べるウェブサイト「よこはま防災e-パーク」を開設しました。防災訓練や研修等に参加できない方など、より多くの方に利用していただくために、SNSや広報紙のほか、地域の出初式や消防フェアなど 様々な機会を捉え広報を実施します。

また、防災指導等の機会に「よこはま防災e-パーク」の動画等のデジタルコンテンツを活用し、啓発の効果を高めます。

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA



パソコン



スマートフォン

【よこはま防災e-パークの広報例】

広報例① イベントや防災指導等で広報



自治会・町内会への防災指導の
機会に広報



赤ちゃん教室などの子育て世代に対する救
命講習の機会に広報

広報例③ 事業所への広報

立入検査等の機会を捉えた広報
福祉施設など事業所への防災指導等の機会を捉えた広報



広報用チラシ（事業所用）

広報例② チラシの掲示やデジタルサイネージ等を活用した広報



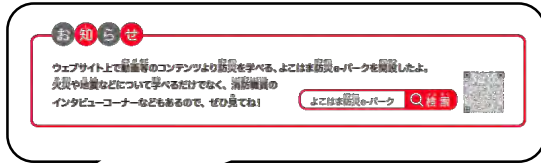
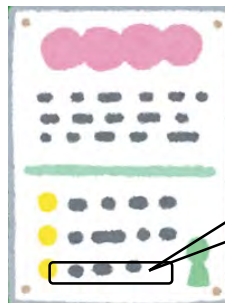
デジタルサイネージ



広報用チラシ



広報例④ 作成するチラシ等のお知らせとして記載



【よこはま防災e-パークにある動画等のコンテンツの活用例】

活用例① お出かけ防災教室で活用

児童一人一台整備されている端末により
よこはま防災e-パークに掲載されている動画等の活用



お出かけ防災教室の事前学習でよこはま防災e-パークの動画を視聴

お出かけ防災教室で消火器の取扱いなどの実技と合わせてよこはま防災e-パークの動画や確認テストを活用

活用例② 高齢者宅への防災訪問で活用

消防職員がタブレットを持参し、よこはま防災e-パークの動画等を見せながら、住宅の状況に応じたアドバイスを実施

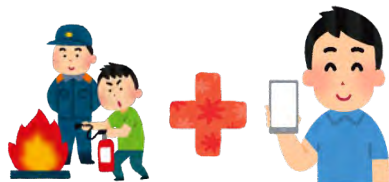


活用例③ 防災訓練、救命講習及び研修などよこはま防災e-パークの動画等を活用

活用例④ 職員への研修等で活用



家庭防災員研修の教材として活用



地域の防災訓練時に実技とあわせて活用



赤ちゃん教室などの子育て世代に対する救命講習の機会に実技とあわせて活用



研修教材として活用



学習教材として活用

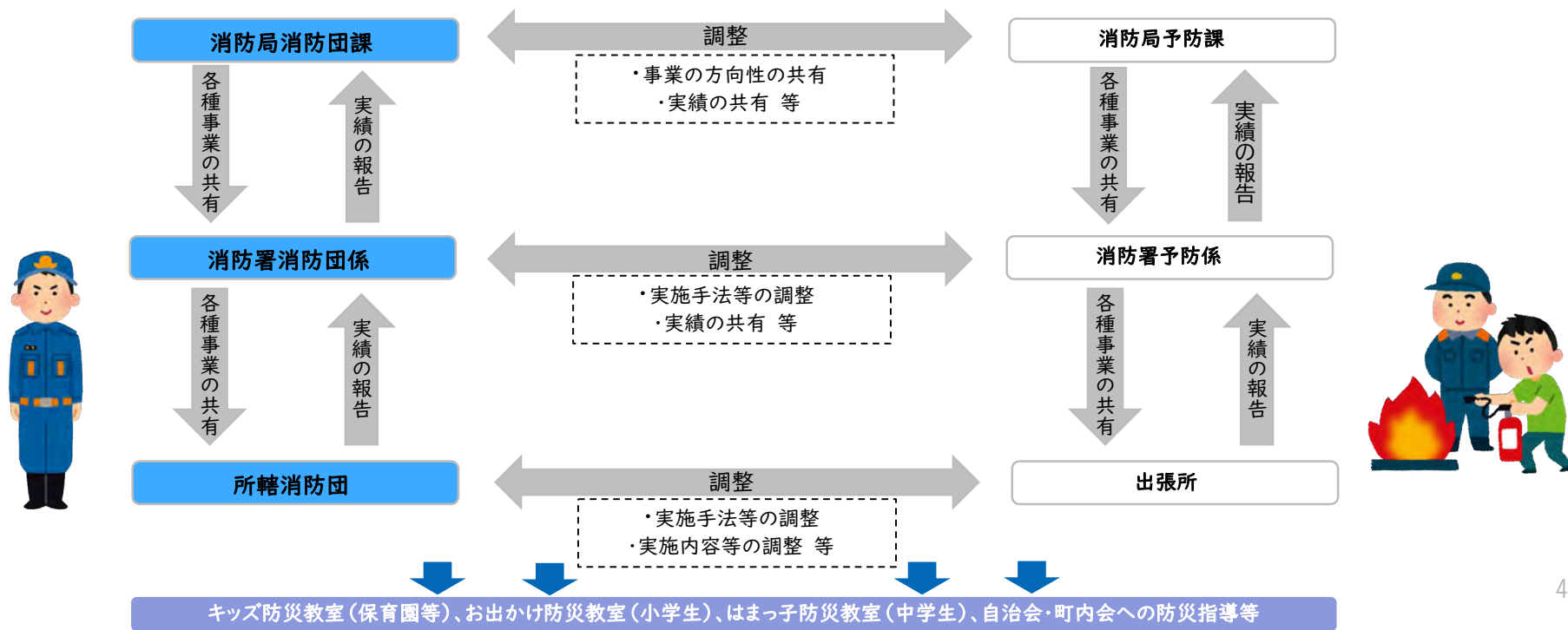
I 基礎編

(2) 消防団との連携

自治会・町内会への防災指導や子どもへの防災教室等について、地域における防火・防災の要である消防団と連携した啓発を実施します。

消防団が啓発を実施する際には、「Ⅱ実践編 Ⅰ」の指導プログラムを有効に活用することとします。

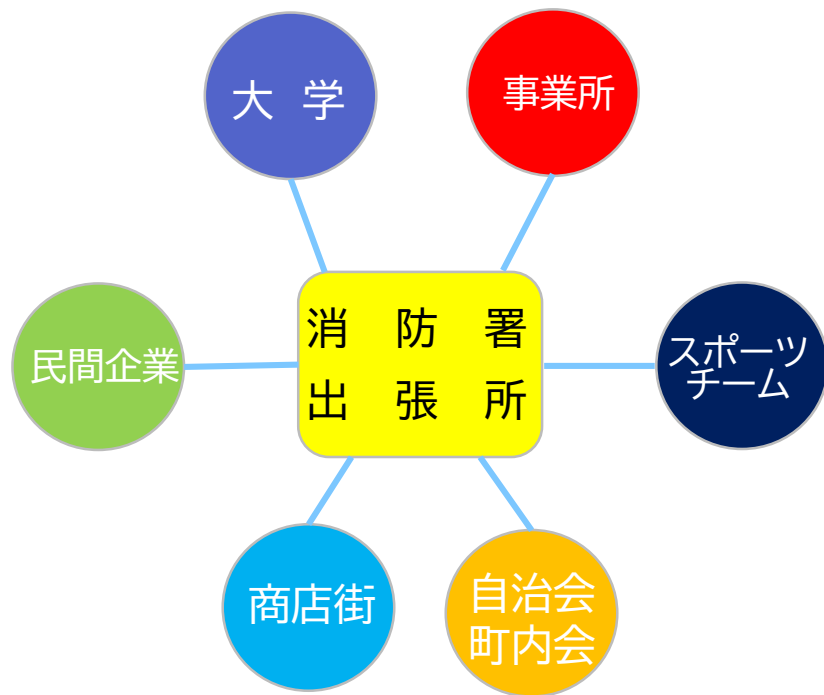
<連携イメージ(参考例)>



I 基礎編

(3) 事業所等との連携

豊富な知見やノウハウをもち地域に根ざした事業や活動を行う民間企業等と連携し、効果・効率的な啓発を進めていきます。



【連携例】

- 大学と連携した啓発に関する研究、実践
- 自治会・町内会の見守り活動と連携した高齢者への防災訪問
- 商店街の空き店舗を活用した子どもへの防災教室
- 介護事業所と連携した高齢者への住宅防火アドバイス
- 事業所と連携した広報
(チラシを活用した広報、防災講演会や防災フェア等の開催)
- 地域のスポーツチームと連携した火災予防広報

I 基礎編

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

(4) 横浜市民防災センターを活用した啓発

横浜市民防災センターは、「楽しく学んでしっかり備える」をキャッチフレーズに、地震の揺れや初期消火、煙からの避難、災害の疑似体験など、様々なコンテンツを体験することで、市民の皆様にも自助・共助の大切さを学んでいただくための体験型防災学習施設です。屋内消火栓やスタンドパイプ式初期消火器具の貸し出しも行っていますので、公園を使用しての訓練も可能です。自治会・町内会における防災研修や小学生の社会科見学等での活用について、関係者に促していきます。



I 基礎編

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

ア 体験メニュー

2種類の体験ツアー（地震・火災体験ツアー、風水害体験ツアー）と6種類の体験プログラムがあります。

ガイドの案内付きで分かりやすく、そして楽しく防災・減災について学ぶことができます。

(ア) 地震・火災体験ツアー（60分）

地震・火災体験ツアーでは、地震の揺れや初期消火体験、災害発生時の対応などについて体験することができます。

(イ) 風水害体験ツアー（60分又は120分）

風水害体験ツアーでは、大雨や土砂災害発生時の対応、避難行動計画（マイ・タイムライン）の作成などが体験できます。

イ 体験プログラム（5名以上より）

災害時に役立つ知識を身に付けることができる6種類のプログラムが体験できます。

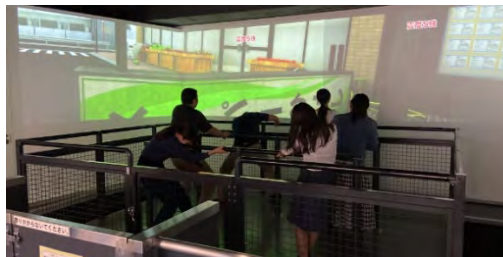
(ア) 災害時に役立つワークショップ (イ) コミュニケーションボード (ウ) 水災害体験

(エ) 避難所課題解決ゲーム (オ) 災害時要援護者体験 (カ) 防災講話（地震・火災・風水害）

ウ 予約受付期間及び受入人数

消防署からの予約は当日から1年先まで

1名から120名まで（要相談）



I 基礎編

(5) 横浜市消防音楽隊を活用した啓発

消防音楽隊は、当センターを活動拠点として、「防災ふれあいコンサート」及び「アンサンブルコンサート」等を通じ、防災意識の普及・啓発活動を展開しています。派遣場所でのチラシ配布等の広報が出来ます。

(派遣の依頼方法・内容等は、防災センターにご相談ください。)

